



知的財産戦略セミナー「経営者向け」

～企業飛躍の鍵はトップ自らの知財戦略から～

～セミナーの会場から～

企業が大きく飛躍するには、経営者が知的財産をよく知り、リーダーシップを発揮して知財戦略を推進することが必要です。今回は経営者を対象とする知財戦略セミナーのエッセンスをご紹介します。

知財戦略は中小企業にとって飛躍の鍵

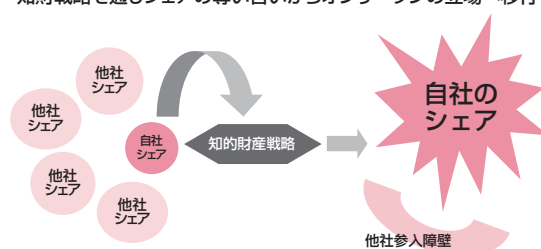
知財戦略とは、技術、ノウハウ、デザインやネーミングなどの知的財産を武器に差別化、参入障壁の構築、ブランド化や市場獲得などを図り、自社を伸ばしていく戦略です。

知財戦略を駆使した事例の典型はインテル社です。同社ではMPU（マイクロプロセッサ）のコアを企業秘密にして独占的地位を確保する一方、外部接続に係る仕様を公開。同社MPU搭載のパソコンを誰でも作れるようにして市場規模の拡大を図っています。

中小企業といえども外国企業との競争に晒される今日、知財戦略は自社を差別化し、売上を拡大する効果的手段です。

<イメージ図>

～知財戦略を通じシェアの奪い合いからオンリーワンの立場へ移行～



知財戦略の推進はトップの責任

知財戦略は単に出願のみ行うことではなく、企画・開発・製造・販売などの他部門を含めトータルの戦略を構築するものです。そのため、全体を見渡せる経営者による管理・統括が不可欠であり、経営戦略の一環として全社的に推進する必要があります。

以下商品開発プロセスにおける知財戦略の実施例を紹介します。

- ①商品企画：通常の市場調査のほか、競合他社は自らの商品にどのような知的財産権を有しているか調査を行います。この結果を踏まえ、技術的にも優位に立った商品開発を図ります。
- ②研究開発：試作品ができた段階で、関係する他社の知的財産権の調査を再度行うことが重要です。自社の技術が先行していれば出願しますが、もし類似の出願や特許権を確認した場合は、即座に開発方針の変更や開発中止などの対策を検討しなければなりません。
- ③製造・量産化：製品を出す前に知財面の防御を万全にします。すなわち新技術は特許権で、デザインや特徴的な形状は意匠権で、製品名は商標権を取得して模倣から守ります。なお、新技術のうち見えない部分は出願せずに企業秘密として守ります。
- ④発表後：競合他社の状況をウォッチし、模倣に対しては警告などの対応をとる一方、優れた技術があれば、知的財産を互いに提供し合う「クロスライセンス」も検討します。また、海外での事業展開や模倣品の逆上陸に備え、外国への出願も必要です。

社内の基盤づくりが大きな第一歩

知財戦略を機能させるには、経営トップが率先して社内の環境・体制整備に努める必要があります。

- ①知的財産を重視する意識の醸成：知的財産に関する目標を掲げ、又は経営計画に組み込むとともに、トップ自ら知的財産をよく学んで周知を図り、全社員の意識向上に努めましょう。
- ②専門人材・組織の育成：知的財産の所管組織を設置して専門の担当者の育成に努め、営業マンや研究開発担当者と効果的に連携できるようにしましょう。
- ③チェック体制の構築：知財担当者には自他社の技術・知的財産権の状況を分析させ、定期的に報告を受けて知財戦略の意思決定を迅速に行える仕組みを構築しましょう。

知財戦略の導入や専門人材の育成等については、知財センターへお気軽にご相談下さい。

(知的財産総合センター所長 生島 博)

知財セミナーの開催情報とお申込みは知財センターホームページをご覧ください。
中小企業の皆さまの知的財産に関するご相談も承っております（無料・予約制）

TEL 03-3832-3656

公社トップページ



知的財産